公益社団法人日本青年会議所 2026 年度 基本方針	
	兵庫ブロック協議会　会長 中嶋　崇
ブロック協議会の幸せな社会	誰もが心弾む未来を描き、希望と安心に満ちた兵庫の実現 兵庫県は、日本の縮図と言われるように、南北が海に挟まれ、山岳や盆地も多く存在し、五国からの成り立ちにより、それぞれの歴史や文化を有しています。多くの魅力が存在する地域でありながら、その魅力が的確にその地域の方々に伝わっているのかは課題が残ります。地域の魅力が的確に市民に伝わるように、青年会議所が再発見・発掘することで、その地域に愛着が湧く市民を増やします。また、企業、個人単位でも経済的な豊かさに限らず、心の豊かさを感じる施策を講じることで、社会全体の価値観が向上する未来を創造します。また、時代の潮流が目まぐるしい昨今、目の前の課題を解決するだけでは青年会議所の存在価値は高まっていきません。産官学民や他団体と連携・協働し、青年会議所が率先して社会を創造していく姿が求められています。いつ何時でも社会を変えていくのは青年会議所だという強い勇気をもち、積極的に共創できるパートナーを獲得することで、青年会議所のファンを増やし、相乗効果でまちの発展に寄与する必要があります。自身が住まうまちが好きで、このまちの発展を心から願う市民が一人でも増えることで、まちの結束力を高め、心が弾み、幸せを感じられる社会を創造します。
ブロック協議会の役割	LOM に一番近い協議会として、LOM の課題やニードを的確に捉え、日本青年会議所の方針に則り、一番効果的な手法を LOM に伝達します。特に、近年減少傾向にあるメンバーの人数を拡大することは、青年会議所のスケールメリットを活かす上で欠かせないことであると、協議会全体で理解度を高め、拡大に尽力します。その上で、LOM では体験できないような規模の事業やかけがえのない仲間を増やすことで、青年会議所が持つ真の力を体現していただき、LOM の発展に寄与します。
ブロック連携事業（政策手法）	1.FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)の導入に向けた運動の推進
	専門家によるセミナーや参画していただくカウンターパートを通じ、命を守る備えと生活を支える備えを学び、市民の意識を実践へと繋げます。また、家族全員で意思統一ができる防災マップを作製し、その防災マップが一過性のものに終わらないために、手に取りやすい形で保存できるものにします。また、防災マップの作製だけでなく、防災に関わるあらゆるシーンを想定した事業を行うことで、記憶にも記録にも残る家族継続計画の作成を目指します。また、一年を通じて継続的に推進し、啓発から実践、そして定着へと段階的に発展させます。効果的な推進のために、地域メディアや SNS による発信に加え、学校や自治会との協働を進め、世代を超えた広がりを生み出します。
	2. 日常から始めるカーボンニュートラル推進事業
	まず、各 LOM のメンバーの家族、市民に対して温室効果ガスによる影響が、未来の社会や子どもたちに悪影響を与えることを十分に伝え、一致団結して温室効果ガスを削減しようとする機運を高めます。連携する適切なカウンターパートと手を組むことで、一年間だけでなく、継続して日常から温室効果ガスを減らす取り組みを構築します。一年間通して、青年会議所が気候変動リスクを訴え、その上で多くの市民を巻き込んだフォーラムを実施することで、兵庫から変える意識を醸成します。
	3.ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用
	アカデミー委員会を設置し、必ずしも統一した理解ができていない状態にあるアカデミーメンバーが、共通の価値観をともに学ぶことで仲間意識の醸成を図ります。そして、共通の価値観を学んだアカデミーメンバーが、積極的に JC プログラムを習得することで、翌年以降もアカデミー委員会の存在を広めてくれ、経験値が低くても LOM で活躍できるよう支援します。
ブロック協議会独自の事業	1.連絡調整会議の実施
	【背景】 兵庫県は大きく 5 つのエリアに区分されており、各エリア内では活発な交流が行われています。しかし、エリアを越えたつながりはまだ十分とは言えず、各 LOM が取り組む事業について相互に知る機会も限られているのが現状です。 【目的】 LOM の運動が最大限の効果を発揮できるようにすることを目的とします。 【手法】 同様の課題を抱える LOM や、類似した事業を展開している LOM、さらには規模の近い LOM 同士をグループ化し、現地またはオンラインにて情報交換を行う機会を創出します。そのなかで、各 LOM が直面する課題に対し、他 LOM の取り組みや日本青年会議所本会の運動をブロック協議会が各 LOM の実情に合わせ、カテゴライズし、事業の手法や拡大手法を提供することで、それぞれの地域に最適な解を導き出します。加えて、この場はあくまでもアンオフィシャルな会議と位置づけ、自由に意見を交わすことができる環境を整えることで、LOM 同士や LOM とブロックの垣根を取り払い、互いの運動の質をより高めていくこ

	とを目指します。また、日本青年会議所本会とより連携を濃くするために、担当副会長あるいは議長に本会総合連絡調整会議に出向いただきます。地区との連携は本会の情報を収集し、LOM 支援として地区委員会の方が、より実践的に円滑に実行できると判断した場合に支援をいただきます。また、本会や地区からの情報は、各会員会議所の前に 1 時間、各 LOM の理事長、専務と情報を共有する時間を設け、LOM からの要望も柔軟に対応できるようにします。
	2. 第 59 回兵庫ブロック大会加古川大会の実施
	【背景】 兵庫県におけるブロック大会は、公益性のある事業として開催されていますが、県民ではなく青年会議所メンバー側への益が強くなってしまっています。 【目的】 対内　青年会議所メンバーが JC 運動の持つ無限の可能性を感じ、自己の成長へと繋げて行くことを目的とします。 対外　参加者に対して兵庫の魅力を発信し、地域へ活力を与える機会を提供することを目的とします。 【手法】 加古川には、自然景観や歴史的建造物、またご当地グルメなど数多くの魅力が存在しております。その多くの魅力をできるだけ多くの県民に知っていただき、加古川の認知度向上に努めます。また、加古川のみならず、県下の他の地域における魅力を一堂に集め、兵庫の魅力を県民に知っていただくことで、郷土愛の向上を図り、兵庫の結束力を高めます。また、兵庫ブロックが推進する運動の集大成の場と位置付け、多様な企業や団体を巻き込み共に創り上げる、県下 22LOM だけでなく多くの県民に周知することで、一過性の運動に留まることなく、継続性のある運動に昇華させます。
	3. 第 75 回全国大会神戸大会への支援
	【背景】 第 75 回全国大会神戸大会を成功させるためには、兵庫ブロック協議会として県内 LOM との連携を強化し、組織全体の意識を高めることが重要です。その実現には、メンバー一人ひとりが主体的に行動し、力を結集することが求められます。 【目的】 県下 22LOM が一丸となった全国大会神戸大会が実施できるよう、兵庫ブロック協議会と各 LOM メンバーの交流を促進し、各運動の効果を最大限高めることを目的とします。 【手法】 兵庫ブロック協議会の担いは、県下 22LOM が一丸となった大会を構築することです。そのために、実行委員会や全国大会運営会議と密に連絡をとり、県下 22LOM とスムーズに協力体制が構築できるよう、予定者段階から綿密に対話を繰り返します。また、大会当日は、ブロックブースで兵庫の魅力を全国に発信し、神戸青年会議所と 21LOM の架け橋となって多方面で支援することで、大会成功に力を尽くします。
ブロックによる LOM 支援の実施内容	1. 総合連絡調整会議の開催 2. 各 LOM の実情に即した会員拡大の推進 3. 参加意識が向上し行動変容される JAYCEE の育成
前年度より引き継いだ重点連携 LOM	LOM 名:丹波篠山青年会議所 LOM 名:宝塚青年会議所 LOM 名:美方青年会議所